

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	経済学研究科
大項目	0 理念・目的 (研究科)
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員 (教職員および学生) に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価 (2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA~Dの4段階とし自ら評価した。A~D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 研究科の理念・目的についてはHP等で社会に公開されているが、大学院生に対する周知徹底をさらに行う必要がある。	→研究科オリエンテーションなどを通じて、経済学研究科の教育目標等の周知徹底。	B	A			
2. 研究科の目標等の定期的な検証は大学院執行部会や他の委員会で絶えず行われているが、今後もこれを継続していく。	→指標なし。	A	A			
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目0.0.1	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。 (理念・目的の設定の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→ ● 理念・目的を設定している ○ 理念・目的を設定していない (理念・目的) 経済学の高等教育機関として研究者を養成するとともに研究機関として、経済学の理論および応用を研究することにより経済学の進展に寄与すること。 (説明) 研究科の理念については、適切であり、それを実現する目的については、社会等の変化を考慮しながら変更をする必要があるが、2009年度に設定したばかりの現在の目標については、その実現に努力しているのが現状である。
	小項目0.0.2
小項目0.0.3	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。 (検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ ● 検証している ○ 検証していない (説明) 執行部や各種委員会で審議した内容を研究科委員会に諮り、改善に向けての努力を行っている。
その他	

《評価指標データ》

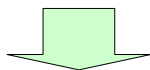
本学の育成した人材（卒業生）に対する社会（企業）の評価
 卒業生がどの程度スクールモットー(マスタリー・フォア・サービス)をどの意識しているか
 卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率
 卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率
 在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
 理念の周知について(1)－理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数
 理念の周知について(2)－総合コース「『関学』学」の履修者数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	教育理念・目標は、大学院生への配付資料に掲載するとともに、研究科HPにも掲載している。
小項目0.0.3	継続的に、執行部や各種委員会で検討されている。
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

その他 (自由記述)	
---------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○研究科の理念・目的の設定、検証はしっかりできています。

【学内委員】

○理念・目的の適切性の検証についてはより具体的な検証方法について述べることはできないでしょうか。

○教育理念・目標については、大学院生、さらには学部生に対して、配付資料で配布され、研究科HPにも掲載されており、評価されます。ただ、研究科・学部の学生だけでなく、学内・学外に対する周知の問題もありますから、その点も考慮することが期待されます。

○大学院生への周知が何をもちいて周知しているかの記述が必要でしょう。配布資料だけでは漠然としています。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・理念の浸透に関して教員への徹底に関する働きかけも記述してはどうでしょうか。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目0.0.1

基盤評価：「学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること」「高等教育機関として大学が追求すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること」

達成度評価：「建学の精神、目指すべき方向性や達成すべき成果等を明らかにし、当該大学、学部・研究科の理念・目的として適切である」

○小項目0.0.2

基盤評価：「公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること」

達成度評価：「理念・目的の周知・公表に関する各種方策（周知・公表の有効性や方法の適切性等の定期的な検証・改善など）をとり、当該大学に対する理解向上につながっている」

○小項目0.0.3

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、理念・目的の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 学部の理念・目的・教育目標の適切性については執行部で絶えず検証を行なっているが、「検証する仕組み」は、執行部にて適切な評価指標を出したうえで、学部自己評価部会などにより点検する仕組みを検討する。